

神奈川大学の内田青蔵教授に4回の連載を通してご紹介いただいたように、ツーバイフォー建築導入の歴史は明治初期に始まり、昭和初期までに日本各地でさまざまな建築がつけられました。この年表は、内田教授がツーバイフォー系の構造および要素をもつと確認した建築事例をまとめられたものです。

年表作成 内田 青蔵 Seizo UCHIDA  
 神奈川大学工学部建築学科教授  
 専門は日本近代建築史。幕末・明治以降の住宅建築の歴史研究の第一人者。歴史的建築物の保存活用を唱える。

# 戦前期におけるツーバイフォー建築の導入史

後期	中期	前期	プレ前期
昭和2年	明治末期 大正2年 大正9年 大正10年 大正11年 大正12年 大正13年 大正14年	明治41年 明治43年 明治44年 明治45年	明治6年 明治10年 明治11年 明治13年 明治15年 明治17年 明治19年 明治22年頃

## 建築事例

- 「開拓使本庁分局庁舎」(北海道・札幌)
  - 小屋組はトラス、床は捨て板を斜め張りした二重板張りの「アメリカ風の手法」で施工。
- 「旧札幌農学校農園模範家畜房」★(北海道・札幌、基本設計/ホイラー、重要文化財)
  - バルーン・フレーム構造に在来構法を加える。
- 「旧札幌農学校農園穀物庫」★(北海道・札幌、基本設計/ホイラー、重要文化財)
  - バルーン・フレーム構造
- 「旧札幌農学校演武場(時計台)」★(北海道・札幌、基本設計/ホイラー、重要文化財)
  - 小屋組はバルーン・フレーム構造。昭和8年に修理し、柱を挿入。
- 「豊平館」★(北海道・札幌、重要文化財)
  - 構造は在来構法だが、アメリカ風様式を基調にして建設。
- 「清華亭」★(北海道・札幌、札幌市指定有形文化財)
  - 小屋組がバルーン・フレーム系の構造(台掌風の構造)
- 「旧札幌博物館」★(北海道・札幌、基本設計/ベートマン、重要文化財)
  - 2階の床組や下屋の小屋組はバルーン・フレーム系の構造。
- 「旧札幌農学校外国人教師官舎」(北海道・札幌)
  - 小屋組はバルーン・フレーム系の構造。
- 「新琴似屯田兵中隊本部」★(北海道・札幌、札幌市指定有形文化財)
  - 「明治学院インブリー館」★(東京・港区、重要文化財)
    - 外壁に斜め張りの下見捨板など、一部はバルーン・フレーム系の構造。
  - 「西村伊作山荘の増築建物」(和歌山県・新宮、設計/西村伊作)
    - バンガロー風の住宅様式。増築した2階部分はバルーン・フレーム構造。
  - 「藤倉氏貸家第1号」(東京・港区)
    - 「あめりか屋」を創設する橋口信助が輸入した6棟のうちの1棟目で、外国人向けの賃貸住宅として利用された。その後、4棟も同様に建設。
  - 「個人邸」(東京・渋谷)
    - 橋口が輸入した1棟を日本人が自邸として建てた。
  - 「小野友次郎邸」(東京・港区、設計/小笹三郎)
    - 「旧木下家別邸」★(神奈川・大磯、設計/小笹三郎、登録有形文化財)
      - ブラット・フォーム構造と考えられる。現存する日本最古のツーバイフォー住宅。
    - 「三井鉱山三池炭鉱倶楽部」(福岡、設計/小笹三郎)
      - 「内藤彦一郎」(神奈川・藤沢)
        - シアトルの「アメリカン・ポータブルハウス社」のバネル工法住宅。
      - 「自由学園明日館 本館」★(東京・池袋、設計/F・L・ライト、重要文化財)
        - 空間を連続させて一体構造とする設計はツーバイフォーの先駆けとの見方あり。
      - 「佐藤安之助邸」(東京)
        - シアトルからの輸入住宅。
      - 「長井長義・長井亜歴山邸」(東京・青山)
        - アメリカからの輸入住宅を3棟建設。
      - 「平和記念東京博覧会での日本初の住宅実物展」(東京・上野)
        - 小沢慎太郎出品住宅/構造は「バルン式」、小屋も「コーラビーム」。
        - 飯田徳三郎出品住宅/「レデーカット式」の部材を使用。
      - 「夕張工業学校寄宿舎」(北海道・夕張、設計/野崎達雄)
        - 設計者は三井鉱山の三池炭鉱に勤務。小笹から学んだ可能性がある。
      - 「丹羽博士邸」(東京)
        - アメリカからの輸入住宅
      - 「東京土地株式会社による住宅」(東京)
        - 「カタログ」によるアメリカからの輸入住宅販売を行う。
      - 「山本道三郎」(大阪・千里山)
        - アメリカからの輸入住宅。
      - 「財部武雄邸」(東京・田園調布、設計/住木直二)
        - 後の大館苑寿邸。施工者はハワイから来た4名の大工という。
      - 「旧古田土雅堂邸」★(栃木・宇都宮、現在は茂木に移築、茂木町指定有形文化財)
        - シカゴのシアーズ・ローバック社製の輸入住宅。
      - 「濱家住宅西洋館」★(東京・武蔵野、登録有形文化財)
        - 成蹊学園がアメリカから輸入して給長邸や寮とした5棟のうちの1棟。
      - 「ボラバ・バンガロー」(東京・築地)
        - 聖路加国際病院の付属外国人住宅。
      - 「富永家住宅」★(兵庫・神戸、設計/ベイリー、登録有形文化財)
        - 輸入住宅。設計者はアメリカ・ポートランドの建築家。
      - 「旧大川栄邸」★(東京・田園調布、設計/三井道男、江戸東京たてももの園に移築)
        - 部材をアメリカから取り寄せ建設。他に2棟建設したという。土台や梁にツーバイフォーの部材を使用。
      - 「旧近藤邸」★(神奈川・藤沢、設計/遠藤新、登録有形文化財)
        - 小屋にカラービームを採用した和洋折衷の住宅。市により移築保存。
      - 「自由学園明日館 講堂」★(東京・池袋、設計/遠藤新、重要文化財)
        - 軸組・土台は角材だが、小屋組や1階床梁は板材によるツーバイフォー構造を部分的に採用。

**大阪**

「山本道三郎」(大正12年)

**栃木**

「旧古田土雅堂邸」(大正13年)

**北海道**

「旧札幌農学校農園模範家畜房」(明治10年)

「旧札幌農学校農園穀物庫」(明治10年)

「旧札幌農学校演武場(時計台)」(明治11年)

**東京**

「明治学院インブリー館」(明治22年頃)

「自由学園明日館 本館」(大正10年)

「濱家住宅西洋館」(大正13年)

**和歌山**

「西村伊作山荘」(明治41年増築)

**神奈川**

「旧木下家別邸」(明治末期)

「旧近藤邸」(大正14年)

※文献調査や現地調査に基づき抽出。文献では「バルーン・フレーム構造」「ブラット・フォーム構造」「2 by 4」「レデーカット」等と称されたものを広義的にとらえた。

「★」は2018年4月現在、現存する建物

■図版出典  
 「山口廣 退職記念講話集」山口廣先生を囲む会 1997年より転載  
 西村伊作「現代人の新住家」1924年より転載  
 その他 当協会会報誌「ツーバイフォー」内「日本のツーバイフォー建築の歴史」Vol.213～216より転載

■参考資料  
 「新建築」1926年7月号  
 「婦人之友」1911年9月号  
 「建築画報」1912年5月号  
 「住宅」1917年7月号  
 「建築画報」1913年6月号  
 「三池炭業所沿革史」  
 「建築と社会」1920年9・10月号  
 「婦人之友」1921年6月号  
 「主婦之友」1922年12月号  
 「文化村住宅設計図説」鈴木書店1922年  
 「主婦之友」1923年11月号  
 建築学会北海道支部研究報告  
 「新住宅」1921年12月号  
 「近代建築再見」山口廣著、エクスナレッジ 2002年  
 「大正14年竣工の尾崎邸(旧大川邸)と設計者三井道男について」内田青蔵、日本建築学会関東支部研究報告1993年